

ことばと向き合う

自分の思いを伝えるときには「ことば」を使いますが、伝えるにはまず自分と向き合い、それをどのように表現をするのか大事になります。そして「ことば」には敬語や外国語といった種類や、言い方伝え方といった表現方法、意味などがありとても奥が深いのです。何気なく使っている「ことば」に意識を向けてみると新たな発見があるかもしれません。

(宗 梨紗)

古賀史健『さみしい夜にはペンを持って』ポプラ社 2023



自分の思いを日記に書くことで、自身との向き合い方が学べる本。気持ちを整理し、ちゃんと考え、伝えようとする方法を教えてくれます。文章を書くのが苦手な人や考え方がわからない人にとっての指南書でもあります。10代の方向けではありますが大人の方にもオススメです。

佐々木良訳 『太子の少年 令和言葉・奈良弁で訳した万葉集②』 万葉社 2023

1300年前の奈良時代に作られた万葉集（主に聖徳太子が詠んだもの）を現代の言葉で訳した本。あまり馴染みのない万葉集をクスッと笑いながら読むことができ、昔の時代を身近に感じることができます。同シリーズの『愛するよりも愛されたい』もぜひ読んでみてください。



佐藤美由紀『世界で最も貧しい大統領 ホセ・ムヒカの言葉』 双葉社 2015



元ウルグアイの大統領ホセ・ムヒカの国連のリオ会議内での印象的なスピーチと彼自身の哲学を紹介した本。当時の国のリーダーでありながら、質素な暮らしを実践する彼の言葉にハッとさせられます。今の消費社会に警鐘をならし、豊かな暮らしとは何かを改めて考えさせられる一冊です。



<世界のことわざ・ことば>

金井真紀『おばあちゃんは猫でテーブルを拭きながら言った』岩波書店 2022

前田まゆみ『幸せの鍵が見つかる世界の美しい言葉』創元社 2018

<語彙力を増やす>

齋藤孝『大人のにほんご事典』海竜社 2018

今野真二『大人になって困らない語彙力の鍛え方』河出書房新社 2017

<敬語・言葉づかい>

岩下宣子『美しい言葉づかい教室』洋泉社 2012

日本語倶楽部『敬語 こんな時には、こう言う』河出書房新社 2008

